

実践的作句を伝授

俳人・宇多さん 桜塚高で特別授業

2019年度の文化功労者で毎日芸術賞を受賞した俳人の宇多喜代子さん(84)が母校の府立桜塚高校で、1年生約350人に特別授業「俳句実践講座」をした。自然をめでる目、読書の大切さ、そして俳句をつくる楽しさを穏やかな口調で語った。【三角真理】

9日に行われた特別授業で宇多さんは、体育館に集まった後輩たちに、自らの高校時代のことから話し始めた。

国語の成績がとて優秀で周囲から国文科への進学を勧められたが、自ら選んだのは武庫川学院女子短大(現・武庫川女子大)の家政科だった。「わたくしは強情ではありませんが『栄養士』という資格を取りたいと思いました。その道は今、間違っていないかと思えます」。食を学んだことが風土や歳時記を深めることにつながった。「皆さんも進路で迷うことがあると思いますが、周囲の意見を聞いて、進みたい道へ行ったらいいと思います」

次はこんな「難題」を投げかけた。「フランスから来たあるご婦人が『日本から若い方がたくさん来るけれど日本ってどういう国ですか?』日本では何を食べますか?』と聞いて、き

「何を食べているか」の問いについては「日本食」ということ、お話し、天ぷらなどと言いますが、平素そんなごちそうを食べていないでしょ」と一刀両断。「日本の伝統食はご飯とみそ汁、あえもの。それと漬物」。ちっとも難しくない答えだった。でも思ひ浮かばない句を披露。



穏やかな表情で高校生と話す宇多喜代子さん
—豊中市の府立桜塚高校で

紫陽花の芽の出る庭に落ちる椿
「おかしな俳句ですね。季語が二つあって」と若き日の句に笑い、「でもね、和尚さんは『あー、アジサイもツバキも喜ぶぞ』って褒めてくださったんです。そして『落ちる椿』を季語にある『落椿』と添削してくださいました。18歳の時がよみがえったように明るい声で話した。

ない人は、いきいきしています」
もう一つ。話の合間に、宇多さんが繰り返したのは「本を読むこと」。「本ほど、未知の世界を知る助けをしてくれるものはない。いきなり『源氏物語』でなくていいです。学業で忙しいでしょうけれど、少し本を読みましよう」

■教室で

生徒は各教室に戻って俳句づくりに挑戦。宇多さんもその様子を見て回った。教室の戸を引く度に「ごめんください」ときれいな言葉であいさす。「できていますかあ?」と机の間を縫いながら、気さくに声をかけた。

「下ばかり見ていないで、上を見てごらん。お月さんをみてごらん」。スマホから目を離して、という願いを言い放った。

「俳句を作っていたら人生返屈することないです。みんなも何十年かすれば、おじいさんおばあさんになります。そのとき豊かな日々じゃないとつまらないでしょ。俳句をしていたら返屈しませんよ。『あいにく』も面白い」。『あいにく10分待ちぼうけ』『あいにくの雨』がない。その10分で人間観察ができる。雨の句をよめるではないか。『返屈して

生徒は各教室に戻って俳句づくりに挑戦。宇多さんもその様子を見て回った。教室の戸を引く度に「ごめんください」ときれいな言葉であいさす。「できていますかあ?」と机の間を縫いながら、気さくに声をかけた。宇多さんは廊下でも教室でも、必ず窓に近づき「いいお庭ねえ」「あの山は眞面ですか?」と母校からの自然を楽しんだ。

俳句入門書など、紹介した本は全て同校に贈った。「だれかめくってくれるとうれしいわね」